

# 66 相沢寺仏面



長祿の面



薬師三尊



指 定 市有形文化財 昭和48年 3 月10日  
 所在地 白 田  
 所有者 相 沢 寺



浄土宗白田山相沢寺は白田住吉にあり、「お面さん」と呼ばれて世に親しまれてきた古寺である。そしてここの寺宝として伝わる41面の仏面は、市文化財となっている重要品である。

この仏面はすべて木彫りで形も大小さまざまあり、製作の系統も各種ある。このことは面貌からみても面の内側にある墨書銘からみてもいえることである。

仏面の中には、長祿2年（1458）10月5日の年記のものがある。また、専門家の鑑定によれば鎌倉期末から室町期の作品数種も含まれており、時代的にも作風的にも地方における重要品とされている。

相沢寺は小諸市平原の十念寺とともに当地方における二大念仏道場であった。この仏面は、念仏宗の行事の一つである二十五菩薩来迎会の迎講に用いる仏面である。つまり念仏行者が臨終に際して極楽から二十五菩薩が迎えに来てくれるという行事の時に使用されるものである。

この仏面の由来としては、もと蓼科山麓堂古屋にあったものを相沢寺の僧が霊夢によって掘り出したとか、大水によって流されたものが白田で拾われたとか、堂古屋において使用された仏面が相沢寺に移って保存されたとか、諸説がある。堂古屋には上人岩と呼ぶ来迎阿弥陀仏の姿をした大きな岩があり、ここを霊場として当地方の念仏行者が集まって念仏会や来迎会を行ったことが、佐久穂町上村の明光寺関係の古記録に残っている。

なお、相沢寺には、来迎会を描いた絵巻も保存されている。